

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

①人材養成目的に沿った科目構成の整理

《人社系》

●吉備国際大学文化財保存修復学研究科文化財保存修復学専攻 「グローバルな文化財修復技能者の実践的養成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

- ・文化財保存科学の知識を有し、国際的に活躍できる文化財修復技能者を養成することを目的とし、外国人教員による「英語コミュニケーション」および「海外文化事情」を新たに開講し、在籍者全員履修とした。同時に、文化財保存科学に関連する「文化財非破壊分析法特論」、「文化財分析実習」も同様に在籍者全員履修とした。加えて、漆工芸品の修復分野にも拡充し、工芸技法の基礎を学ぶ講義を充実させ、従来から開講している絵画および文書典籍修復と同様に文化財保存科学の知識を持った漆工芸品修復技能者の養成も加えた。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・文化財保存科学の知識を有する文化財修復技能者養成については、従来から本研究科には修士論文を2年間で充実かつ円滑にまとめることができるように、指導教員1名の他に2名の副指導教員を配置している。修復分野を専攻する大学院生には、文化財保存科学の内容を修士論文に盛り込むことを条件とし、これを補佐するために文化財保存科学分野の教員3名のうち1名は必ず副指導教員となるように配置した。講義や実習は分野にとらわれない内容であるが、大学院生の修士論文研究に即した指導ができるように実習内容を選択させ、文化財保存科学の知識を実践の場で発揮できる修復技能者が育つように工夫した。
- ・英語関連科目実施については、海外インターンシップや海外講師招聘に役立つように注意を払った。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・本研究科では、修士学位論文の審査だけでなく、修復研究の対象となった実物作品とともに、論文内容を簡潔にB1パネル2枚にまとめ、本学園が所有している加計美術館（岡山県倉敷市）に展示して大学院修了展を開催し発表させている。学位論文審査願を提出した大学院生は、この修了展において論文審査会の主査および副査に論文内容を発表し、同時に一般の来館者からも研究内容の評価を受けることになる。文化財保存科学の知識を加えた研究内容と考察を行うことによって、実践的な文化財の保存修復が理論や倫理にそって行われること

を一般の方にも理解して頂くことができ良い影響が出ている。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

①国内外におけるインターンシップ・フィールドワークの充実

《人社系》

●吉備国際大学文化財保存修復学研究科文化財保存修復学専攻 「グローバルな文化財修復技能者の実践的養成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

- ・国際的に活躍できる文化財修復技能者を養成する方法の一つとして、海外インターンシップを毎年実施している。従来、東洋美術分野の米国・ボストン美術館を派遣先としていたが、本プログラムからは、さらに西洋美術、文書典籍、および漆工芸品分野の米国およびヨーロッパ諸研究施設や美術館にも大学院生の派遣先を拡充した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・それぞれの修復分野で研究活動を行う大学院生が海外インターンシップの対象となるよう、各分野の教員が派遣先の開拓に努力した。
- ・外国語教育を取り入れたことで、大学院生自ら相手先への受け入れ願いや現地での実施項目など、インターンシップ開始前の打合せ等がスムーズに進められていた。このような事前の準備があったことから、派遣された大学院生は、定められた1ヵ月間のインターンシップ期間に当初の目的以上の成果を得たことが事後の報告会で確認することができた。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・インターンシップ派遣先を拡大することで、東洋美術修復研究、西洋美術修復研究、文書典籍修復研究、あるいは漆工芸品修復研究を専攻する大学院生個々の修学意欲を喚起することができ、インターンシップ派遣先の修復技能者と派遣された大学院生との今後の人的交流が期待されるようになった。